

会報

VOL.18



2026年6月30日発行

波止場町便り

記憶される港の風景

(その10)

波止場町と港湾文化について



記憶される港の風景(その10)

1. 貧しい現実と幸福な「嘘」—その続き

幸福な「嘘」の話を書こうと思ったのは、AさんBさんの話がずっと引っかかっていたこともあるのだが、それはジャン・ジュネへの思いとも絡んでいたからでもある。

ジャン・ジュネは1910年12月19日にフランスのパリで生まれ、1986年4月15日にパリのホテルで亡くなった。75歳であった。「ジュネの母親は娼婦で、生後7か月間ジュネを育てたのち養子に出した。里親は大工で、愛情深く、親身な家庭だったという。ジュネは学校では優秀な成績を収めていたものの、幼少期から何度も家出と軽犯罪をくり返したりしていた。」「度重なる浮浪行為を含む軽犯罪により15歳でメレー流刑地に送られ、18歳で外人部隊に入隊するまで拘留された。その後、同性愛行為に及んでいるところを捕まり、不名誉除隊となりヨーロッパ各地を放浪、窃盗、売春婦として過ごした。この時期のことは『泥棒日記』(1949年)で詳しく述べている。」「1937年にパリに戻った後、幾度も逮捕され、1949年10回の有罪判決を理由に終身刑を言い渡されようとした時に、ジャン・コクトーを中心にサルトルやピカソなどの多くの著名人が仏大統領に判決の取り消しと恩赦を請願し、ジュネは釈放されたのである。その後ジュネは小説と詩、批評と演劇・シネマ、政治運動と多岐にわたって行動し、多くの影響を与えることとなる」

私はジュネが亡くなった年に、日雇労働文化や港湾文化が生き残っていた波止場町に来たのだが、それはあくまでも偶然である。ましてや波止場町はジュネの描く『プレストの乱暴者』と比べると、「健全な労働者の世界」である。酒や博打や暴力性は私たちの世界を規定していたが、それはあくまでも場の持つ港特有の雰囲気というもので、染まる染まらないは個人の選択の問題だったからである。そして私は波止場町に来てからジュネを知ったのではなく、すでに知っていたがゆえに重ね合わせて波止場町での景色を見続ける事になったわけである。企業に包摂される港湾労働者もいれば、企業に包摂されない波止場町という場所に展開される日雇と港湾労働者群。その多くが地元出身ではない「流れ者」であり、厳格な保証人や過去歴を問われない雇用環境は、自由で普遍的な港湾文化の揺籃であったともいえる。ジュネは「嘘つき」である。ジュネは自著の中で何度も自分を評して「美青年」と語る。しかし、彼の写真を見ても同時代の証言を検証しても、彼の話は「作られた物語」である。初対面から「こいつは嘘つきだ」と思いながら、物語全体の躍動感中では「この嘘」は大した問題ではなく、「この嘘」がジュネという人間とその世界にとっては必要不可欠である事を認めるのである。ジュネの描いた世界は映画でいえばR18指定であろう。獄中や軍艦内で繰り返される支配と服従、正義と犯罪、密告と沈黙、欲望と裏切りが、美と暴力で装飾されながら何度

も反転されて展開される。支配者に進んで身体を差し出す場面。欲望を受け入れ、あるいは裏切り、従属と裏切りを繰り返す。だからこそ、ジュネの「嘘」は幸福だとは言い難い。しかし、本当の事が豊かであったり美しければいいのだが、そうでない場合私たちは何をもって理不尽な現実に対応していくのだろうか。本当のことであれ「貧しい現実」は切実で深刻な問題解決を求めているのに告発にとどめられ、温和な同情に包摂される。労働者大衆は繰り返し服従して「貧しい現実」にしがみつかれる。それは「幸福な嘘」や裏切り以上に残酷な生き方なのではないかと、ジュネの作品はフランスの知識人に取り上げられたのである。もちろんジュネはそんなことを意識して書いたわけではない。ましてやジュネはサルトルをはじめとするフランス知識人の期待を裏切っている。彼は知識人の「胡散臭さ」を嫌い、切実な「悪」の側に立ち続けたのである。正統派知識人ではないジュネの特異さはその描かれる世界が具体的身体性をもったものであり、ややもすると犯罪者の俗物的感想・告白本になる所を優れた人間性観察の反転物語として描き出していることである。

私がジュネの事を気にかけていたのは「ジュネが愛したのは、社会の底部で声を奪われた人々だった。囚人、同性愛者、乞食、売春婦、密告者—国家が“悪”として指差し、封じ込め、制度化された正義のもとに切り捨ててきた者達」ということではない。ジュネが外部者ではなく、内部者として“悪”の奥底にある沈黙を掬い上げ、その構造を暴露し、物語として語ろうとしたことである。私の好みもあるのだろうが『泥棒日記』と同時期に感銘を受けたのは、米国の作家ヒュバート・セルビー・ジュニアの『ブルックリン最終出口』で、邦訳が出たのは1968年である。両者に共通しているのは十代半ばで学校を離脱し社会に出た低学歴者であり、その作品もわいせつで反社会的なものとして出版は多難であった。作品は両者とも暗い内容が多いが、「そこには人間の本質や社会の矛盾に対する鋭い洞察が含まれている」と評価されている。私にとっての波止場町との関りは、内部的ではなく外部的であったはずである。そして本来、外部者ならば「場」に対する責任が求められることもなく、「流れ者」なのだから風のように過ぎていけばいいだけである。にもかかわらず私は「場」に拘束され、この「場」に漂うものを視ながら、語られない何ものかを語ろうとしているのである。

2. 波止場町と港湾文化について

一時期『江戸学』がブームになったことがある。それは江戸時代が世界一の人口を擁しながら、豊かで自由な文化生活が何故可能であったのかを論じていた。“火事と喧嘩は江戸の華”に体现される「火事好き」というのは世界的にも珍しいと言われているが、「木と紙の家」が大勢であった江戸時代の建築事情は需給と庶民のカタルシスを刺激したとも言われている。同様に有名な「宵越しの銭は持たぬ」は“江戸っ子の生まれぞこない金を貯め”と川柳でも揶揄されている。江戸時代の庶民

にとって生活上の時間感覚はどうだったのだろうか。その日稼いだお金をその日に使っても、次の日また働けばいいという日々単位の生活感。江戸文化を考える時、この庶民の生活感覚は抜きにできない。武士や商人のようにその家や歴史を守るために、様々な制約を生きる人々の時間は「宵越し」とは違う性格であり、庶民の日々生きる時間感覚が流通・消費を循環させ、社会の活性化をもたらしていたのである

これまでに生活のサイクルが日々であるということに規定された日雇労働者の一群が、波止場町を中心に存在していた事には触れてきた。そしてそれは、釜ヶ崎や山谷、港でいえば横浜の寿町とも共通したものがあながら、一概に「流れ者の地」と括れない神戸港特有の、波止場町一帯の歴史的特性にも触れてきた。かつては「港に行けば飯にありつける」「日払いでも何とか雨露をしのげる」として、多くの労働力を港は確保した。港の個性は港の特性に規定されたものであるが、それは神戸港の就労形態や雇用形態にも反映されてきた。本来であれば25年前の港湾労働法の改定で、神戸港では日雇港湾労働者はいなくなり、その文化も消滅し新たな文化を目にするはずであった。しかし、日雇労働者は神戸港で一定数働いているが、新たな文化が生まれる兆しはない。

大阪万博も終わり、1回目の大成功であった1970年万博時のトピックスとして「さぬきうどん」が全国化する経過が報道されていた。発端は寿司店『京樽』が会場に出店を求められ、寿司と共に「さぬきうどん」を提供したことと、寿司の容器がゴミと

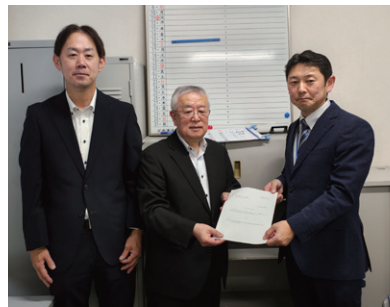
なり、会場を汚すことで寿司折を取り止め「さぬきうどん」と「イナリ寿司」のセットを提供した事が、爆発的なヒットとなったという事であった。そこで当時の値段である。ラーメンが100円、うどん=200円、寿司折=500円であり、現在の値段に置き換えるとラーメンは600円、うどん=1200円、寿司折=2000円とのことである。ここからである。70年、私は東京で早朝に新聞配達青年に最寄り駅ではなく、目的地駅までの距離を尋ねたところ「どうしたんですか?お金がないんですか?無かったら、目的地の駅までのお金をカンパしましょうか」と言われたのである。当時、私は若かった時間に余裕のある生活をしていたので、カンパの申し出を断り、歩くことにしたのだが、青年が申し出た金額は10円玉ではなく100円玉単位だったのである。当時、確かに世の中はまだ景気が良かったのであるが、終電直前の駅の切符売り場前では若い男女がサラリーマン風の人々に向かって「ねーオジサン、交通費カンパしてよ」などとしつこく迫っている光景を何度も見ていたし、「だらしね一奴らだなー」と思っていたから、当時は気にしておらず、忘れてしまっていた新聞配達青年の申し出た額を改めて考えた時、素直に驚いてしまったのである。今、何が豊かで何が貧しいかを考える時、反転した世界を視るのである。余裕のあるものは貧しく、せちがらい者は豊かだと。波止場町は、新たな港湾文化と神戸文化を生み出す「場」となるのだろうか。

今回は前号で触れた、69年発刊の『港湾KOBÉ』と『BRERA』という建物を紹介したいと思う。(続く—磯田 和男)

活動報告

4月14日 兵庫県教育委員会へ写真集を寄贈しました

学校への写真集の無料配付は、昨年11月18日の神戸市教育委員会様への寄贈に続き、本年4月14日に兵庫県教育委員会様と兵庫県私学総連合会様に写真集をそれぞれ搬入しました。



搬入時に立ち会っていただきました、兵庫県教育委員会事務局 財務課副課長の笠井信介様との寄贈式の模様

それにより、兵庫県教育委員会様では4月24日の学校事務長会で兵庫県下の全公立高校に配布が、また、兵庫県私学総連合様では4月27日の校長会総会で兵庫県下の全私立高校への配付が完了いたしました。

なお、これに伴い、神戸市内の全小・中学校、市立高校に253冊、兵庫県下の全公立高校に164冊、兵庫県下の全私立高校に51冊、写真集合計468冊の寄贈・配付が完了いたしました。

教財第 1037 号
令和 8 年 4 月 14 日

波止場町通まちづくり協議会
会長 青井 基洋 様

兵庫県教育委員会 教育長 印

寄 附 受 納 書

このたび申し出のありました下記物品の寄附については、その趣旨に沿い、教育のために県立学校で活用させていただきたく受納いたします。

記

物品名 「KOBÉ 近代港湾荷役の地 弁天浜・国産波止場：神戸開港 150 周年」
記念写真集 164 冊

兵庫県教育長様からいただきました寄附受領書

第12回通常総会 5月11日開催

第12回通常総会終了のご挨拶 (決議のご通知に代えて)

会長 青井基洋

拝啓 立夏の候、会員の皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本協議会の運営に多大なご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨日神戸市立まちづくり会館において、25名の会員出席を得て、第12回通常総会が開催され、事前に議案説明資料並びに決算報告及び監査報告(詳細)を送付しお読みいただいた上で、下記の通り各議案を説明し、ご承認をいただきましたことをご報告いたします。ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

つきましては、決議内容は以下の通りとなりました。

(決議の内容・ご通知)

第1号議案 令和7年度の事業内容及び活動報告 承認の件

令和7年度の会員の異動状況は、入会者のみ2社(株式会社インター・ビジネス・コミュニケーション様、株式会社パワーステーション様)でしたので、令和8年3月31日現在の会員数は27社となりました。通常活動は、X'mas&忘年イベントの開催、月例交流会も年2回の開催、会報も年4回発行できました。7年度の重点項目であった記念碑パネル増設制作については、制作枚数を3枚から2枚に変更し、全体的に初めての方がご覧になっても分かり易くして、QRコードで新旧コンテンツを説明できる形とするなど内容を整理し、まとめました。一方、写真集の寄贈は神戸市内の全小中学校、兵庫県下の全高等学校への配付が完了した等の詳細な活動報告があり、承認されました。(資料別添①をご参照ください。)

第2号議案 決算報告及び監査報告並びに決算(案) 承認の件

資料別添②の通り「令和7年度決算報告及び監査報告」については、監事の監査報告を受け、適正に処理されていることが認



められている旨の説明があり、決算についても詳細な報告があり、承認されました。具体的には、令和7年度は大きな支出がなかったため、前期繰越金2,005,869円から本年度への繰越金は2,529,576円となり、差引523,707円のプラスとなり、結果的に会費収入分(52万円)が残りました。

第3号議案 令和8年度の事業計画(案) 承認の件

8年度は、議案書記載の11項目について、詳細な説明があり、承認されました。つきましては、今後、役員会、月例交流会等で詳細な協議を重ね、会員の皆様とも情報を共有して、実行していきます。8年度は、記念碑パネル増設制作を重点項目として取組み、10月頃の除幕式を目指すことといたします。記念碑パネルについては、2枚を自己資金で増設する。予算については、ハードの制作費(820,600円) Web上のコンテンツのQRコード・データ作成に(646,800円)の合計1,467,400円を計上することとします。

また、既設パネルに一部腐食が見られたので、急遽補修作業を検討し、見積額(368,500円)を計上することとします。なお、補修につきましては、会員から腐食原因について「想定外の塩害被害により、水・塩と基板のアルミが反応した状態が考えられる」という説明に対し、「想定外の塩害」という説明に強い違和感を覚える」「原因究明と再発防止の整理が極めて重要である」との意見が出されましたので、補修予定を中断し制作会社とも協議して、再度の原因究明、補修内容の精査、再発防止策の再検討をし、会員の皆様とも情報共有して、進めて参ります。

今後とも、会員皆様との親睦を深め、議論を重ねながら、「波止場町通まちづくり協議会」の活動を進めて参りますので、「協議会」の運営にご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、何かとご負担をお掛けして恐縮ではございますが、近日中に本年度年会費の請求書をメール添付にて発送させていただきますので、併せて、よろしくお願いいたします。

敬具

